

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2107 SSMP2107 PSMP2407						
2. 授業担当教員	加藤 典子	5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表								
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。</li> <li>2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。</li> <li>3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。</li> <li>4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。</li> <li>5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。</li> <li>6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。</li> <li>7.社会福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる（受験予定学生の場合）。</li> </ol>								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>①テーマを設け、量的調査の質問票を作成する。</li> <li>②質的調査のインタビュー演習の振り返りをおこなう。</li> </ol>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 潮谷有二ほか、『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深めることができたか。</li> <li>2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解することができたか。</li> <li>3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握することができたか。</li> <li>4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習することができたか。</li> <li>5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付けることができたか。</li> <li>6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践することができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>小テストの評価基準</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業の態度や内容の把握など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート・課題提出と発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			小テストの評価基準	40%	授業の態度や内容の把握など	30%	レポート・課題提出と発表	30%
小テストの評価基準	40%								
授業の態度や内容の把握など	30%								
レポート・課題提出と発表	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>インターネットや新聞を見ると、「子育て意識調査」から「若者意識調査」まで、様々な社会調査がある。その中で、自分の気になる調査を見つけたら、誰が実施しているのか、どんな結果なのか、方法におかしいところはないか、よく読んでみる。何か、おもしろいことが見つかるかもしれない。</p>								
13. オフィスアワー	<p>授業時間の前後など気軽に相談・質問すること。</p>								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション（講義概要の説明） 社会調査の意義、社会調査における社会福祉士の役割	事前学習	テキスト序章（pp.2～22）を読む。						
		事後学習	調査の歴史についてまとめる。						
第2回	福祉にかかわる調査のための問いの設定と調査の流れ	事前学習	テキスト1章（pp.24～36）を読む。						
		事後学習	調査の流れを理解し、問いの設定を試みる。						

第3回	調査対象者の選定	事前学習	テキスト2章 (pp.38～59) を読む。
		事後学習	調査対象者の選定について、量的調査と質的調査の違いを確認する。
第4回	測定の基本的考え方、尺度の要件、質問紙の作成	事前学習	テキスト3章 (pp.62～82) を読む。
		事後学習	学習した用語を復習する。
第5回	データ収集の方法、質問紙法、質問紙調査の実施	事前学習	テキスト4章 1～3節 (pp.84～96) を読む。
		事後学習	量的調査と質的調査で、データ収集方法の違いを整理する。
第6回	量的調査の演習① (仮説と作業仮説)	事前学習	関心あるテーマから仮説を考えてくる。
		事後学習	仮説から作業仮説をつくる。
第7回	量的調査の演習② (質問文と選択肢)	事前学習	量的調査の質問紙を考えてくる。
		事後学習	量的調査の質問紙を完成させる。
第8回	量的データの整理と分析①	事前学習	テキスト5章 1～4節 (pp.112～128) を読む。
		事後学習	学習した用語を復習する。
第9回	量的データの整理と分析②	事前学習	テキスト5章 5～8節 (pp.128～148) を読む。
		事後学習	量的データの分析方法を整理する。
第10回	質的調査法で使用するデータ収集の方法、調査の倫理	事前学習	テキスト4章 4・5節 (pp.96～110) を読む。
		事後学習	調査の倫理について理解する。
第11回	質的調査の演習 (インタビュー)	事前学習	自己紹介で話す内容について考えてくる。
		事後学習	演習の振り返りをおこなう。
第12回	質的調査のデータの整理と分析	事前学習	テキスト6章 (pp.150～169) を読む。
		事後学習	質的調査の方法について理解する。
第13回	ニーズ調査	事前学習	テキスト7章 (pp.172～183) を読む。
		事後学習	ニーズ調査について整理する。
第14回	社会福祉調査の展望	事前学習	テキスト終章 (pp.226～234) を読む。
		事後学習	新しい調査手法についてまとめる。
第15回	総まとめ 調査の実施方法について、基本事項の再確認	事前学習	テキスト全体に目を通し、これまでの学習のまとめを行う。
		事後学習	調査実施の重点項目のまとめと、基本事項の再確認を行う。
期末試験			